

令和5年度

姉妹都市提携25周年記念

ピッツバーグ市友好訪問・行政視察報告書



令和5年7月5日（水）～7月10日（月）

さいたま市議会

目 次

1	はじめに	1
2	訪問・視察日程	3
3	団員名簿	4
4	ピッツバーグ市友好訪問・行政視察概要	
	◆ピッツバーグ市概要	5
	◆7月6日（木）	
	◇ピッツバーグ大学メディカルセンター視察	7
	◇ピッツバーグ市表敬訪問	9
	◇ピッツバーグ市行政管理予算局視察	10
	◇デュケイン大学視察	12
	◆7月7日（金）	
	◇アンディウオーホル美術館・ポップ地区視察	15
	◇カタリスト・コネクション視察	17
	◇ロボティクス・ネットワーク視察	17
	◆7月8日（土）	
	◇フィップス温室植物園視察	19
	◇姉妹都市委員会レセプション	20

1 はじめに

団長 江原 大輔

我々議員団一行は、令和5年7月5日（水）から10日（月）までの6日間の日程で、さいたま市の姉妹都市であるアメリカ合衆国ピッツバーグ市を市長訪問団とともに訪問しました。

今回の議員派遣は、ピッツバーグ市と姉妹都市提携を締結してから25



ジェイク・パウラク副市長と手を携えて

周年の節目となる年を迎えたことから、両市の友好親善を一層深め、更なる交流促進を目指すとともに、各種行政に関する調査を行い市政の発展に寄与することを目的として実施いたしました。

出発にあたり、カナダで続く森林火災の影響がアメリカ合衆国の中西部や東部に広がり、大気汚染が深刻になっているとの報道があり、少し不安を抱えての渡航となりましたが、到着してみると澄み渡る青空が広がっておりました。



シェリル・アシュバー姉妹都市委員会会長と一緒に

現地の方に状況をお伺いしたところ、先週までは、大気の状態が悪かったようでした。

今回の行政視察では、ピッツバーグ市への表敬訪問やピッツバーグ市行政管理予算局、ピッツバーグ大学メディカルセンター、デュケイン大学、アンディウォーホル美術

館、カタリスト・コネクション（中小企業コンサルタント）などを訪問し、訪問最終日には、姉妹都市委員会のレセプションに参加させていただきました。

ピッツバーグ市役所では、両市の関係者立会いのもと、清水市長が姉妹都市協定同意書に署名し、今後の更なる友好親善を確認しました。その後、歴史ある市議会議場などを見学させていただきました。最後にエド・ゲイニー市長を含め、清水市長、議員団とともに写真撮影が行われました。

姉妹都市委員会のレセプションでは、25周年を記念した大きなケーキを用意していただくなど盛大に歓迎していただき、姉妹都市委員会の方々と和やかな楽しいひとときを過ごすことができました。

それぞれの訪問先で、限られた時間の中で懇切、丁寧に対応していただき、有益な情報交換を行うことができたことは将来的な市政の発展に寄与するものと考えます。

今回の訪問・視察による成果を、今後の議員活動に生かし、市政発展に一層努力するとともに、お忙しい中、我々のために時間を割いていただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



姉妹都市協定同意書を手にするエド・ゲイニー市長と記念撮影

2 訪問・視察日程

令和5年7月5日（水）～7月10日（月）

月 日	発着地・滞在地	交通機関	訪問先・視察先等
7月5日 （水）	羽田空港 発 （ワシントン・ダレス国際 空港経由） ピッツバーグ国際空港着 ピッツバーグ市 着	飛行機 専用車等	 （ピッツバーグ市泊）
7月6日 （木）	ピッツバーグ市 滞在	L R T 等	・ピッツバーグ大学メディカル センター ・ピッツバーグ市表敬訪問 ・ピッツバーグ市行政管理 予算局 ・デュケイン大学 （ピッツバーグ市泊）
7月7日 （金）	ピッツバーグ市 滞在	専用車等	・アンディウオーホル美術館・ ポップ地区 ・カタリスト・コネクション ・ロボティクス・ネットワーク （ピッツバーグ市泊）
7月8日 （土）	ピッツバーグ市 滞在	専用車等	・フィップス温室植物園 ・姉妹都市委員会レセプション （ピッツバーグ市泊）
7月9日 （日）	ピッツバーグ市 発 ピッツバーグ国際空港発 （シカゴ・オヘア国際空港 経由）	飛行機	 （機内泊）
7月10日 （月）	羽田空港 着	飛行機	

3 団員名簿



団長
江原 大輔



副団長
谷中 信人



佐伯 加寿美



川崎 照正

随行 議会局総務部長 飯塚 秀寿

4 ピッツバーグ市友好訪問・行政視察概要

◆ピッツバーグ市概要

ピッツバーグ市は、アメリカ合衆国の北東部に位置するペンシルベニア州の第2の都市です。人口は約30万人で、アレゲニー川とモノンガヒラ川に挟まれた三角形の地域が市の中心部となっており、ダウントウンと呼ばれ、ピッツバーグ市で最も高い建物であるUSスチール・タワーをはじめ、多くの高層ビルが建ち並んでいる。緑豊かな公園も点在しており、郊外には広大な公園が広がっていて、ジョギングやサイクリング、カヌーを楽しむ。



ポイント州立公園から対岸の丘を望む

かつては、鉄鋼のまちとして栄えていたが、鉄鋼業の崩壊により、衰退した経済の再生に官民一体となって取り組み、今日では、先端技術の街へと変貌を遂げている。



デュケイン大学から街を臨む

現在の主要な産業は、サービス業、ハイテク関連産業、医療関連産業であり、カーネギー・メロン大学やピッツバーグ大学、デュケイン大学など多くの大学が市内にキャンパスを置く学術都市でもある。近年では、アメリカで最も住みやすい街ランキングで常に上位に選ばれている。

スポーツが盛んで、MLB、NFL、NBA、NHLの北米4大プロスポーツリーグのうち、NBAを除く3リーグがチームを置いており、本拠地のスタジアムを有している。MLBのピッツバーグ・パイレーツ（PNC

パーク)、NFLのピッツバーグ・スティーラーズ(アクリシュア・フィールド)、NHLのピッツバーグ・ペンギンズ(コンソル・エナジー・センター)が活躍して人気を博している。

文化・芸術面でも世界有数の都市であり、鉄鋼王アンドリュー・カーネギーは、美術館や博物館にも財を投じており、カーネギー美術館、カーネギー自然史博物館、カーネギー科学センター、アンディウォーホル美術館などがある。



アンディウォーホル美術館

本市との交流は、旧大宮市が1981年(昭和56年)に、ペンシルベニア州から、46名の教職員を受け入れたことをきっかけに始まった。その後、教職員同士が隔年で相互に訪問する「国際教育文化交流」が進展する中で結びつきが深まり、1998年(平成10年)に姉妹都市提携の運びとなった。以後、定期的な交流が続いている。

◆7月6日（木）

◇ピッツバーグ大学メディカルセンター（University of Pittsburgh Medical Center）

【報告者 佐伯 加寿美】

ピッツバーグ大学メディカルセンター（以下「UPMC」という。）は、1986年にピッツバーグ大学より法人化し、米国最大級の非営利医療機関として、30以上の大学病院や地域病院、専門病院、600を超える外来患者施設から構成されている。運営形態としては、100%保有しているもの、他の会社と提携して運営しているもの、運営のみ参加している病院、コンサルティングしている病院などがある。全体収益は2.6億ドル（約370億円）、5,000人の医師が所属し、ペンシルベニア州最大の非営利団体で、従業員は95,000人。海外にもアイルランド、イタリア、クロアチア、カザフスタン、中国などに拠点を置いている。

UPMC インターナショナル副社長で、ピッツバーグ大学医学部心臓・血管研究所准教授のマシュー・ハリスティーン氏からUPMCの説明を受けた。UPMCは、アメリカの中で大きい教育機関も兼ねた医療機関

であることが特徴。あらゆる専門分野を備え広域医療圏において地域住民に医療サービスの提供をしている。UPMCには商業部門にUPMCエンタープライズという会社があり、他の会社や技術開発、治療法に対しての投資、また研修医の教育にも力を入れている。また保険会社も持っていて、患者を側面から守っている。ヘルスサービス部門が実際の病院であり、多くの医者は働きながら、ピ



ピッツバーグ大学の教授でもある。このように診療と研究を結びつけることは重要なことで臨床治験における研究の世界的リーダーとなっている。



UPMC 副社長 マシュー・ハリスティーン氏と清水市長、議員団

UPMC はスポーツ医学を専門に扱うスポーツ医学センターを有している。アメリカンフットボールやアイスホッケーのチームとも提携、ピッツバーグ大学すべてのスポーツ部門とも提携していて、大人から子どもまで運動能力のあらゆる側面を改善するためのトレーニングプログラムの提供もしている。

特にさいたま市はスポーツに力をいれており、市内に集積するスポーツ施設を中心に市内の宿泊・飲食、研修施設をネットワーク化し新たなスポーツ産業の成長の場とするネットワーク型「スポーツシューレ」がある。また、市立病院では今年度スポーツ医学総合センターを設置した。今後、例えばUPMCが行っているようにスポーツシューレとスポーツ医療との連携を進めることができるのではないだろうか。今回選手に対して、リハビリやトレーニングの仕方を科学的に学び、活かしてもらうための連携方法、全試合にスタッフが同行することや、練習中のケアにも専門職が対応できる相互間の連携を作っていくことなどを学んだ。さいたまスポーツシューレの連携協定先にはまだ病院は入っていない。選手のトレーニングやリハビリ、日ごろからのケアなどを行うことでよりよいパフォーマンスに向けて、ぜひさいたま市でも、スポーツとスポーツ医療との連携について「UPMC スタイル」の知見を活用し進めていってほしい。

◇ピッツバーグ市表敬訪問

【報告者 川崎 照正】

今回の議員派遣については、さいたま市とピッツバーグ市が姉妹都市提携を締結して、25年の節目となる年を迎えたことから、両市の友好親善を一層深め、更なる交流促進を目指すことを目的に、ピッツバーグ市表敬訪問を行った。

午前11時より市庁舎会議室において、今回新たに姉妹都市の再確認同意書を交わした。

同意書交換後、ジェイク・パウラク副市長、清水市長からの挨拶があり、双方より、今回の訪問・受け入れに対する感謝の言葉とともに、



市庁舎会議室において、エド・ゲイニー市長とともに



市議会議場において、ジェイク・パウラク副市長とともに

今後更なる交流の促進と大学などとの教育連携についても協議を行った。

清水市長からは、ピッツバーグ市との交流のおかげもあり、さいたま市の生徒(中学生)の英語力は日本で一番高くなったとの発言があった。

江原議長からは、この交流が未来永劫続くことをお祈りいたします。次はさいたま市でお会いしましょうと発言があった。

その後、議会事務局職員の案内による議場内視察が行われ、議会の歴史、構成など詳しく説明をいただいた。

◇ピッツバーグ市行政管理予算局

【報告者 川崎 照正】

正午よりピッツバーグ市行政管理予算局会議室において、最高財務責任者パトリック・コーネル氏と補佐官デイビット・ハッチンソン氏から「ピッツバーグ市の予算編成と見える化、その編成にあたっての予算評価」についての講義を受講した。

ピッツバーグ市では予算編成において、気候変動と公平性の目標に沿った支出を示す、新しいアプローチを行っている。全てのプログラムは、市の目標をどのように達成したかに基づいて採点される。この透明性ある予算編成は、予算が市の目標に合致していない部分を示すのに役立つ、最終的に二酸化炭素ゼロの予算という目標を達成することを目的としている。地球温暖化対策の取組を中心に、市長が重視している政策の分野を数値化し、それらを評価し、優先順位をつけて実施し、そしてそれを市民にわかりやすく公表している。

清水市長からは、ウェブサイトのビジュアル化により、優先順位をはっきり



最高財務責任者パトリック・コーネル氏と握手する江原議長



させ、市民にわかりやすくする試みは素晴らしいと発言があった。また、さいたま市における予算編成に係る過程について、総合振興計画をベースに進捗状況を管理しながら進めているなどの説明があった。

さいたま市においてもSDGsに向けた取り組みが国から認められ、2019年にSDGs未来都市に選定された。2050年までに二酸化炭素の排出ゼロ「ゼロカーボンシティ」を目指しており、今回のピッツバーグ市の予

算編成の取り組みは大変参考になった。

◇デュケイン大学 (Duquesne University)

【報告者 佐伯 加寿美】

ピッツバーグ市は、以前は鉄鋼の町で栄えたが鉄鋼産業が衰退したのち現在は、「IT」「医療」「大学」の町と言われ有名大学がいくつも存在している。

今回訪れたデュケイン大学は1878年に創設されたカトリック系私立大学。当初はドイツ移民の神父が孤児と貧困児童のために作った学校が母体である。現在は10の専門分野と修士・博士課程の大学院も備える規模となり全米でトップクラスにランキングされている。全学生数は約1万人。そのうち6,000人が大学に、4,000人が大学院に所属している。海外からの留学生は75か国から約600人が在籍。

デュケイン大学とさいたま市との関係は、平成30年に市長と市議会議員が、令和元年には教育長が訪問してから始まっている。その後の交流の在り方について様々な検討を重ねてきたが、コロナのため令和3年度はオンラインプ

ログラムで現地高校生と市内4校の市立高校生とが

SDGsをテーマに議論を行い、令和5年6月には大宮国際中等教育学校からの生徒150人あまりがデュケイン大学など3つの大学に分かれて現地の大学生や高校生と一緒に夏季プログラムに参加し、交



デュケイン大学国際エンゲージメントエグゼクティブディレクター
ジョセフ・デクロスタ氏の説明を聞く清水市長と議員団

流を深めている（デュケイン大学には54人が参加）。

最初にデュケイン大学副学長のデイビッド・ドーシー氏から「デュケイン大学ではたくさんの留学生を受け入れており、派遣もしている。今後さいたま市

とのパートナーシップの拡大について話し合っていきたい」と挨拶があった。

次に、留学生が来たときに市や大学になじんでもらうための紹介をする仕事をしており、さいたま市の生徒も担当しているデュケイン大学国際サービスコーディネーターのシエナ・ダレッサンドロ氏からは大学の概要の説明があった。ピッツバーグは、カーネギー博物館、フットボールチーム、アンディウォーホル美術館、ハイツなどがあること、安全な街としても評価されており、就職市場でもトップ40に入り、就職先は有名企業などであることなどについて言及した。

続いてデュケイン大学国際英語研究機関のコーディネーターで、以前ALTとして新潟の中学校、その後新潟大学、新潟県立大学で教鞭をとっていたベサニー・イヨベ氏は、2021年のオンラインプログラムの写真や、また、今年の6月に行われた大宮国際中等教育学校の生徒受け入れプログラムの映像などを紹介した。「今後、さいたま市の生徒とピッツバーグの学生が理解を深め、大人になっても続くような関係を構築していきたい、また高校生向け、大学生向け、短期、長期プログラム、言語と科目を組み合わせたプログラムを作る専門知識もあるので、さいたま市から来る学生向けのプログラムを作ることができる」と語った。

当日、会の進行をされていたデュケイン大学国際エンゲージメントセンターエグゼクティブディレクターのジョセフ・デクロスタ氏は「さいたま市とは姉妹都市としてこれからもその関係を拡大していきたい、デュケイン大学には日本人の学生は少ないのでその数も増やしていきたい」と述べた。



ケン・ゴムリー学長を囲んで

挨拶にと駆け付けたデュケイン大学学長のケン・ゴムリー氏からは「さいたま市の、国際大使となれるような生徒たちを受け入れ、パートナーシップ関係を築けたことは非常にうれしい。これ

からも長年にわたりよい関係を作っていきたい、若い学生がお互いに理解し成長し、世界に羽ばたいていくことを願う」と締めくくった。

その後学内を案内していただき、設立当初神父さまが住んでいたという建物や、これから建設予定の医学部や法学部の敷地なども見学した。

ご一緒した女性のリサ・クマザワ氏は、デュケイン大学ビジネススクールで初めてのマイノリティの副学部長として2022年に就任された。このように外国の学術分野でロールモデルとして活躍される女性にお会いできたことも収穫であった。

デュケイン大学から学長、副学長はじめ教授や職員の方が対応して下さったことは、デュケイン大学側でもさいたま市との関わりをより強固にしていきたいという表れでもあったと感じた。また各人の挨拶にもあったが、今後どのようにパートナーシップを拡大できるのかについてデュケイン大学側から話があり、これについてはさいたま市としても今後の展開を検討していく必要がある。

現在は、デュケイン大学とは大宮国際中等教育学校の生徒のサマープログラムへの参加、教育委員会が市立4校の高校生をつれての視察などを行っている。また教員についてはリッチモンドで交換派遣を行っている。今後、生徒のみならず、社会人の学び直しとしても活用できないだろうかと感じた。7月8日には姉妹都市委員会とのレセプションが開かれたが、そこでピッツバーグ大学で日本語の指導をしている方から、学生はもちろんのこと社会人になってから、またシニアになってからいつでも学び直しができ、勉強する道をつくることの重要性を述べられていた。現在は学生との交流となっているが、様々なプログラムの用意があるとベサニーさんからも話があったように、長期での滞在型プログラムの開発などを連携して行い、生徒たちだけでなく社会人、特にシニア層や、市職員への派遣、また大学院への道につなげていくなど、さいたま市とデュケイン大学との交流の幅と連携を拡充し、文教都市さいたま市をさらに進めていく必要があると感じた。

◆7月7日（金）

◇アンディウォーホル美術館・ポップ地区 (The Andy Warhol Museum, The Pop District)

【報告者 谷中 信人】

アンディウォーホル美術館は、ポップアートの巨匠と呼ばれ20世紀の世界のアートシーンに大きな影響を与えたアンディウォーホルの出身地に1994年に建設された。彼のコレクションを最も収蔵した美術館であり、他方単一アーティストの美術館としては世界一、美術館としても北米最大規模を誇る。



ポップアート地区代表兼アソシエートディレクター
ダン・ロウ氏の説明を聞く清水市長と議員団

美術館と館外のポップ地区を案内していただいた。またこの後、館内で昼食に招かれ、文化芸術施策について有意義な意見交換が行われた。

この美術館を文化拠点とし、地域経済活性化を目的として始められた地域開発プロジェクト「ポップ地区」では、この新たな地区計画により観光、企業誘致、若者育成プログラム、雇用促進プログラムなどが現在精力的に行われている。

ポップアート地区代表兼アソシエートディレクターを務めるダン・ロウ氏により、ポップ地区の計画概要の説明とアンディウォーホル美

国内のミュージアムでは撮影にあたっての制約が多いが、そういったこともなく自由に鑑賞ができることに加え、ハンズオン展示やインスタレーションといった直接作品に触れることができたり、鑑賞者が作品に溶け込めるように体験型の工夫が随所に見られた。そして今後もパブリックアート、イベントやパフォーマンス施設の建設などにより文化観光都市を目指していきたいとの説明があった。



また昨年京都で開催されたアンディウォール展に続き、明年は東京での開催を予定していること、今後行われる「さいたま国際芸術祭」開催にあたってのアドバイスを求めたところ、専門家の立場から「特別な何かをつくること」「伝えたいことを用意すること」が必要であるといった貴重な話があり、文化芸術創造都市を目指すさいたま市にとって参考になる有意義な視察となった。



◇カタリスト・コネクション (Catalyst Connection)

◇ロボティクス・ネットワーク (Pittsburgh Robotics Network)

(経済交流 先端技術産業と市企業との交流)

【報告者 川崎 照正】

午後1時ピッツバーグ郊外にある鉄工所跡地において、ピッツバーグ市における先端技術を持った製造業等とベンチャー企業等のマッチングなどを行っているカタリスト・コネクションの代表取締役ペトラ・ミッチェル氏及びJETRO NEWYORKの投資アドバイザーもつとめているピッツバーグ・ロボティクス社のライアン・オシェア氏に講義していただいた。



視察場所の建物は、以前は鉄工所で100年以上前に建てられたものである。ピッツバーグ市は、かつて鉄鋼の街として、世界でも有数の都市でしたが、その後、アメリカの鉄鋼産業の衰退とともに停滞してしまった。

40年経った後、ピッツバーグでは活発な経済が

戻ってきている。それは、教育や医療、製造業に関して、あるいはテクノロジーやロボット産業にまつわる経済で発展しており、ICTをはじめ先端技術産業の街として復活してい



る。この建物が経済の活性化の象徴であり、この中にはカーネギー・メロン大

学がやっている、未来の学校と呼ばれるものや、ARM と呼ばれる高度ロボット産業製造研究所が入っている。



ライアン・オシェア氏と議員団

ピッツバーグ市の小規模な企業が世界的に競争力を持つために、最先端の技術を駆使し、あらゆる支援を行っている印象を受けた。ピッツバーグの様々な分野の先端技術もった企業とマッチングできるさいたま市の高度な技術（部品）を持った企業を探しており、今後の更なる経済交流に期待したいと思う。

◆7月8日（土）

◇フィッパス温室植物園 (Phipps Conservatory and Botanical Gardens)

【報告者 佐伯 加寿美】

フィッパス温室植物園があるこの地区は、ピッツバーグの文教地区と呼ばれ、大学他、各種施設が整っている。鉄鋼業を営み、財を成した、ヘンリー・フィッパス氏が1893年ピッツバーグ市に寄贈し、この名前がついている。

この施設は、ピッツバーグ大学から、徒歩10分程の距離にある、広大な面積の市民公園「シェンリー公園」の入り口部にあり、訪れる方のにぎわっている。

施設内部は、20室程の大きな温室植物園と外部植物庭園から成っており、特徴的なのは、熱帯雨林他、温帯各国の植物園とそこに住む、昆虫類、蝶類などが、自然な環境状況で住み付いていることである。また日本庭園室などもあり、盆栽や小さい池の周りにはモミジなども植えられていた。



毎年、その年のテーマを決めて、宣伝・PR、各種イベントを行う事になっているとのことで、私たちが訪れたときは、テーマは「ファッション」であり、あちらこちらにファッションショーを思わせる人形やオブジェが置いてあり、植物とマッチしていてインパクトもあり、とても興味深く感じた。

フィッパス温室植物園のように、植物園と何かのテーマを掛け合わせたの展示というのはとても面白い取り組みであると感じる。別種類のテーマとのコラボ



で植物の違った側面や「顔」が見られると感じた。

さいたま市でも大崎の植物園での活用による集客や、また見沼用水沿いの桜の回廊などにアートを設置するなど国際芸術祭とのコラボも今後検討する余地はあるのではないだろうか。

◇姉妹都市委員会レセプション

【報告者 谷中 信人】

旧大宮市がピッツバーグ市との姉妹都市提携をした当初より両市の友好親善に寄与した方々を中心とした姉妹都市委員会に招かれ、ノースパークの湖畔にてレセプションが開催された。

レセプションは、姉妹都市提携に携わった方、日本に友好的で縁のある方、現地在住日本人といった姉妹都市委員会の方々と、市長訪問団、議員団の30名近くが集まり、友好的な雰囲気の中、盛大に行われた。

姉妹都市提携をした当初より25周年を経るまでの経緯を振り返り、その間ピッツバーグ市での生活や日本に対する思いとい



った幅広い話題がのぼり、終始友好的な歓談となった。



ピッツバーグ市は、学術都市であり教育関係者も参加しており、さいたま市教育委員会のALTや姉妹都市交流事業に関わるなど関心が高く、海外研修プログラムの今後に期待を寄せていた。

今回、議員訪問団を結成しピッツバーグ市に派遣されることになったが、姉妹都市提携25周年を盛大に迎えることで、今後の両市のさらなる



友好強化に役立つことを肌で感じた。

また、旧大宮市から続く友好親善の歴史は、さらに両市民間で交流を広げ、その水かさを増すことが望ましいが、そのためには、今回の訪問団や教育委員会の海外研修など、さまざまなかたちで交流の輪を広げる努力を積み重ねていくことが必要だと感じた。



姉妹都市委員会の皆様とともに

令和5年度 さいたま市議会
姉妹都市提携25周年記念
ピッツバーグ市友好訪問・行政視察
報告書
令和5年8月29日 発行